

## 芸術科書道Ⅱ学習指導案

石川県立金沢商業高等学校 教諭

指導日時	平成17年9月9日（金）4限目
対象生徒	総合情報ビジネス科 3年生16人（31～37H 自由選択）
科目名	書道Ⅱ
使用教科書	書Ⅱ（光村図書）

## 1 単元名 漢字の創作

## 2 単元の目標

- ・生活の中に書を取り入れようとする意識をもとうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・漢字の少数作品の創作により、点画の組み合わせによる構成の多様さなどを学び、表現を工夫する。 【芸術的感受や表現の工夫】
- ・表現意図に応じた表現方法を工夫し表現する技能を身につける。 【創造的な表現の技能】
- ・鑑賞により書の良さや美しさを味わい、表現との関連を図る。 【鑑賞の能力】

## 3 指導に当たって

## (1) 生徒の状況

3年次自由選択16名のクラスである。一年次に書道を選択しており、「きれいな字が書きたい」「筆で書くのが好き」という生徒が選択しているため、皆一生懸命取り組んでいる。一年次と比べると人間的成長も伴い、豊かな線質が見られ、味わい深い作品ができあがっており、様々な課題を与えることが出来る。ただ、能力的にはばらつきがあり、また要望も様々なため、生徒のニーズも考慮に入れつつ、生徒につけたい力を考え授業を行っている。

## (2) 指導方針・方法

これまで培ってきた基礎を踏まえ、創作に入る。上手に書こうという意識を取り払い、自分らしさを表現させたい。言葉からくるイメージをはっきりさせ、自分が気に入る作品を目指し、書の楽しさを更に感じさせたい。また、気軽に書を書こうという意識を育て、飾ることも含め日常生活の中に書を取り込ませたいと考える。

## (3) 教材選定の理由

これまで臨書で基礎的な力をつけ、漢字仮名交じりの書では創作を行い、自分の感動を大切に表現すること、そして様々な表現方法も学んできた。本単元では、少数（一字）の創作からはじめることで、より意識的にバランスの取り方や線質に自分の表現方法（イメージなど）をとりこませたいと考える。参考作品も用い、自分の感性にあった創作を行う。

## 4 単元の指導計画（総時数7時間）

- 第1時 線をきたえる。
- 第2時 一字作品① 自分のイメージを明らかにし表現する。（本時）
- 第3時 一字作品② 構成法を学び、表現方法を工夫する。
- 第4時 二、三字作品 配置のバランスを工夫する
- 第5時 自分の好きな言葉を選び創作する①
- 第6時 自分の好きな言葉を選び創作する②
- 第7時 Tシャツに書く。

5 本時の学習（第2時）

(1) 題 目 一字作品① 自分のイメージを明らかにし表現する。

(2) 本時のねらい

- ・自分のイメージにあわせ表現方法を工夫をしようとする。【芸術的感受や表現の工夫】
- ・自分のイメージにあった一字作品を作る。【創造的な表現の技能】
- ・鑑賞作品や古典作品を味わい、自分の表現に取り入れる。【鑑賞の能力】

(3) 準備・資料等

書道用具一式、プリント、参考作品、ワークシート、プロジェクター、パソコン

(4) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・支援	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 10分	出欠確認・準備	道具を準備し、墨を擦る。	心を落ち着かせて墨を擦らせる。	
展開 5分	本時の目標を知る	仙厓や他の人々の作品を鑑賞し、本時の目標の一つである線質と形、墨色の変化などについて確認する。	仙厓と他の人々の作品を鑑賞し見比べさせながら、本時の目標1を確認させる。	
5分		さまざまな「山」の作品を鑑賞し目標の二つめである文字とイメージの関係について確認する。	さまざまな「山」を参考例として示し、目標2を確認させる。	
15分	一字作品「道」「愛」を作る。 ①自分のイメージを描く。 ②古典作品を鑑賞し、自分の好きな作風を知る。	ワークシートに記入し、書いてみる。 ①題材からイメージするものを書き出し、自分のイメージを明らかにする ②いろいろな作品の中から好きなものを選び、参考にする。	ワークシートに記入させ、発表させた後、水書板で師範を行い生徒に書かせる。 ※イメージが表現されているか、机間指導で確認する。生徒の作品を黒板に貼り、表現意図を発表させる。 「道」「愛」の漢字の語源について解説する。	自分のイメージを言葉で表現する。また自分の好みを知り、その作品の魅力に気づき、自分の表現に取り入れようと工夫する。 【芸術的感受や表現の工夫】(ワークシート、観察)
10分	①②の目標でイメージに合わせて創作する。	①、②の要素を取り入れた上で、更に自分の良さを出すことを念頭に置き作品を作る。	どんなところが好きなか意識させ表現させる。 自分のイメージが表現されているか、また、自分が好きな作品となったか確認させる。 ※机間指導を行い、努力を要する生徒には口頭又は師範で個別に指導する。	自分のイメージを作品に表現する。 【創造的な表現の能力】(観察・作品)
週末 5分	後片付け	道具を片付け、作品を提出する。	次回は構成の工夫について学ぶことを伝える。	